

かいはつ

47号

題字 梅園小学校 5年
後藤美智子



写真 左・「おじゃる丸リレー」 上・「引っ張ってゲット！ゆらゆら運ぼう」

岡崎市現職教育委員会 特殊教育部会

平成14年12月10日発行



障害と関係なく子どもは発育する

岡崎市就学指導委員会
専門医（小児科医）

杉浦 壽康

「子どもの特徴は」と尋ねられたら「常に（時々刻々）発育（＝成長・発達）していること」と答えることにしている。健全児も非健全児（障害児）も自ら発育するためのエネルギーを持っている。それが子どもの特徴の一つである。ただし、発育の仕方は子どもによって異なる。健全児と非健全児の違いは、発育の速度の差である。非健全児は概してゆっくりである。健全児も非健全児も発育の速度には個人差がある。ましてや、非健全児はその障害の種類および障害の程度により非健全児の中でも大きな違いが出る。

非健全児と関わる時、健全にできるだけ近づけようと、いろいろ方策を立て発育を支援する。このこと自体は誤りではない。注意しなければならぬのは、支援のために立てた方策がその子に適しているかどうかである。一般に日本人は、「皆と同じ」でないと不安になるようだ。たとえば就学年齢になると、非健全児を健全児との交流の中で教育を受けさせたいと願う。確かに、非健全児が保育園に通う間に、目を見張るような発育をする。だからと言って、小学校でも同じように発育するとは言えない。何故なら、幼児期には健全児と非健全児の間で、発育の速度に差はないが、学童期に入ると差が明らかになるからである。

近年、障害の種類も多くなり、画一的な対応はできない。保護者の要望も多様になっている。非健全児との関わりでもっとも大切なことは、「子どもは発育する」を大前提に、非健全児の個性を見極め、その子に最も適した支援が、結果的にその子の為になるということを、しっかりと確認しておくことである。

感動体験が

「実りある交流」に

渡辺勝英

六ツ美西部小学校長

小中連携教育の研究会が竜南中学校で開かれた。上地小・緑丘小・竜南中の特殊学級の児童生徒たちが、息の合った和太鼓演奏を通常学級の友達の前で披露した。

ゲストティーチャーや先生方が固唾を飲んで見守る中、大柿先生のかげ声を合図に特殊学級の児童生徒らはドンドコドンドン。

兄弟学級の友達の前で格好よくという思いも強く、太鼓を打つバチにも力が入り、「ヤー」の決めのポーズでは、とても誇らしげな表情になっていた。特殊学級児童生徒の精一杯の演奏は、兄弟学級の友達を揺り動かす、新鮮な驚きを与え、お互いの頑張りを認め合う機会になったようである。

兄弟学級のA女(中学三年)は特殊学級のB男に優しく声をかけて励ましたり、C男の肩にそっと手を添えてリズムをとったりするなど、ごく自然なかかわり方

グループ練習に取り組んでいた。

今回の交流の感想を見弟学級のD女(中学三年)は、「私が一番印象的だったのが、みどり・けやき竜南九組(特殊学級)の子たちの姿です。すごく明るいし、私たちの方が何か大切なものをもらったように感じました。」と述べている。

通常学級の子供たちにとっては交流を通してお互いを認め合いながら、人としてのかかわりの大切さやすばらしさを体感することができ、非常に意義のある交流だったといえる。特殊学級の子供も、通常学級の子供たちとかかわることの楽しさを体験し、自信や安心感をもって自分を表現することができるようになってきた。

「交流」とは、どちらか一方ではなく、お互いに実りがあったこそ、初めて「交流」といえる。

交流活動は、息の長い継続的なものであらねばならない。従って相互の糧になるように、交流をどのように計画し、展開すればいいのか、具体的な方法について、実践研究を重ねていきたい。そして、設定された場面での交流から日常の中での自由な交流へと交流の内容を深めていくことが必要であると思う。

岡崎ライオンズクラブ招待

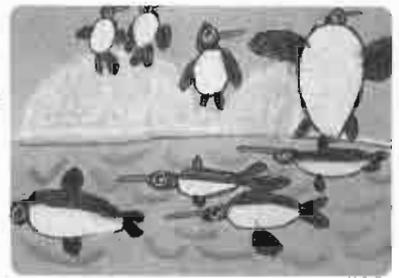
社会見学

名古屋港水族館

九月二十五日に岡崎ライオンズクラブ様のご招待で、百五十七名の小学生が名古屋港水族館へ出かけました。

結団式では、根石小学校の辻村尚馬君が、お礼のことばを大きな声で立派に言いました。

水族館には、カメやペンギンをはじめ、たくさん魚が悠悠と泳いでいました。ウミガメの小さな赤ちゃんを見つけて喜び、じつと見つめる子供の姿がありました。また、次々と練り広げ



井田小1年 加古敏矢

られる華やかなイルカショーに、子供たちは大喜び。拍手と歓声がスタジアムに広がりました。

解散式では、山中小学校の鈴木雅基君が、楽しかった思いを込めて、感謝のことばを言いました。時のたつのを忘れるほど、楽しく充実した一日でした。

招待映画鑑賞会

今年で十六回目の映画鑑賞会が、ツツイエンターテイメントコーポレーション様のご厚意で実施できました。

岡崎グラント劇場で上映された「筋肉マン」や「デジモン」 「仮面ライダー」といった子供達の大好きな映画に、大人、子供合わせて三百二十六人が参加

し、楽しませていただきました。

電車やバスを使つての乗り物学習や、康生町での外食学習と組み合わせて実施した学校も多く、夏休みの一日を有意義に過ごすことができました。

子供達の絵や作文、手紙もたくさん集まり、お礼として届けることができました。これからも続けて頂けるといいですね。

かんはつてます15

市の駐車場

横井 吉英

僕は、豊田高等養護学校を卒業し、現在は、岡崎市役所の立体駐車場で働いています。

最初は、覚える事が多く、辛いなあと思いました。今まで一番困った事は、お客さんに市役所の仕事ではなく、「どこかいい温泉はないか。」と聞かれたことです。

でも、辛い事ばかりではなく、上司の人達と冗談を言ったり、テレビの話をしたりして、色々楽しい事もあります。これからもがんばって仕事をしたいです。

市川 岳彦

僕は、去年十二月に二週間実習して頑張ってきた、今年一月四日に正式採用されました。最初は、「無事に仕事が出るかなあと心配したけど、今は、一生懸命頑張って仕事をやっています。僕のやっている仕事は駐車場内と入口、出口の所の警備と来庁者西駐車場の警備をやっています。その仕事でつらい所は、先輩に注意される所で、楽しい所は、まじめにやっている所です。良かったなあと思う所は先輩にほめられる所です。これからも頑張りたいと思います。

第20回 子どもと親の集い運動会



九月十一日、岡崎市中央総合体育館で、第二十回を迎えた「子どもと親の集い運動会」が盛大に開催されました。

小学生や中学生、そしてお父さんやお母さん、みんな力を合わせて、楽しく競技に参加しました。

「今年も会えたね」そんな気持ちがいっぱい詰まった運動会になりました。

プログラム

1. ミッキーたいそう (全員)
2. 決めろ! からくりボール (全員)
3. おじゃる丸リレー (小高)
4. 引っ張ってゲット! ゆらゆら運ぼう (中親)
5. くだものゲットだ! (小低)
6. エーストライカー (中)
7. 助けて スパイダーマン! (中)
8. おさかな いっぱい (小親)
9. アイーン ジャンケン (全員)



子供の 忘れられない選手宣誓
葵中 白坂 和也



子供の声 シャツチーといっしょに
矢作東小 ゆうすけ

子どもとおやのつどういんどう会にバスでいきました。そうごうたいいくかんにつくとシャツチーがいきました。そしてシャツチーといっしょにしゃしんをとりました。たまいにれをやりました。そしておじゃるまるリレーをやりました。ちよつとたのしかつた。



子供の声 いろいろやったよ
矢作東小 ゆうた

子どもとおやのつどういんどうかいがありました。たまいにれで子どもは4いでした。おじゃるまるリレーをしました。たすけてスパイダーマンのおてつだいをしました。おさかないっぱいをやりました。

僕は選手宣誓をやる人を選ばれた時はとてもうれしかったです。なぜなら選手宣誓をやる人は岡崎市の代表だからです。当日までにいきごみの入ったセリフが決まりました。

当日、小中学校の生徒や先生方やお家の人が僕に注目している中で大きな声で元気よくしゃべりました。このことは一生忘れません。

子供の声 楽しかった
福岡中 江端 翔



歌を歌っている時、マイクに向かっ歌ったので、とてもはずかかったです。

ミッキー体そうをして、玉入れをやつて、ゆらゆら運ぼうのとエーストライカーとスパイダーマンとアイーンジャンケンをやりました。

教師の声 来年もやりたいな
担当の 羽根小 宇都木枝里子

「ミッキー体操やろう。」

とM。その声でカセットデッキにテープを入れるN。自分の位置へ移動するK。毎朝、笑顔で元気よく体操するのが日課になった三人。

しかし、練習を始めた頃は、三人とも体操をやりがらなかつた。

そんな三人に変化が表れたのは二期期。ミッキーの帽子とバンダナを身につけ、運動会で大勢の前で代表として、かつこよく体操をするという目標ができてからだ。このことが三人のやる気に火をつけ、何度も何度も体操の練習をやりたがり、日に日に上達した。

た。楽しかったです。

親の声 親子の集い運動会に参加して
福岡中 江端 正

お父さん、おばあちゃん、ひろき君、見に来てくれてありがとう。

健康の子達に迷惑を掛けはしないか。そんな心配をせず観ていられる運動会。伸び伸びと走る翔を観て五年が過ぎた。僕の育児参加の記録でもある。どの子供達も少しずつ成長している。叶うなら背空の下で、皆で思い切り走らせてやりたいと思う。

いよいよ本番。全く緊張した様子もなく、練習通りの体操ができた。代表を務まるだろうかと不安からの出発だったが、見事にやり遂げることができた三人から、可能性を信じるこの大切さを教えられた。

「来年もミッキー体操やりたい。」と言うMの笑顔から満足感が伝わってきた。



葵グループ研究発表会

児童・生徒のコミュニケーション能力を高める

小学校・中学校の連携

井田小五・六組と葵中開発学級では、毎年交流会を行い、親睦を通してかわる力の育成を図っています。本年度は、コミュニケーション能力を高めることに重点を置いて交流会を計画しました。



本年度は、四月から毎月交流会を進めてきました。葵中開発学級が会の計画をし、井田小五・六組を招待する形で会を始めました。

交流会の進め方

交流会の内容は、両学級での総合的な学習の時間に「昔を調べよう」と題し、昔の遊び・手作りおもちゃ・手作りお菓子について追究してきたものです。

六月の葵グループ研究発表会当日は総合的な学習の時間として、開発学級を会場にして第三回の交流会を行い、「あおいだ横丁」という模擬店を開きました。グループごとに追究してきた「べっこうあめ・玄米だんご・手焼きせんべ

交流会や子供たちの様子

研究会当日の交流会は、前半はお菓子の引換券をもらうためのゲームによる交流、後半は模擬店という形で授業を展開しました。ゲームは、割り箸鉄砲や糸巻き車など昔の手作りおもちゃによるゲームで、中学生が小学生に遊び方を説明しました。中学生は、小学生に分かりやすく伝えることを意識して話をすることができました。また小学生は、教師の支援だけでなく中学生からの言葉がけによって「教えて」「手伝って」など相手とかわるために必要な言葉を使うことができました。

個別カードの作成

交流を進めるにあたり、一人一人のコミュニケーションの能力を把握するために個別カードを作成しました。それを持ち寄って、葵中・井田小双方の担任が集まり、子供たちの課題や交流会での目標について共通理解を図りました。

またこれまでの交流会の様子からコミュニケーション能力や意欲をより高めるための活動場面のあり方についても話し合いました。

成果

今回の取り組みでは、小中の先生が連携することで、子供たち一人一人の課題や目標を把握し、個別に応じたきめ細かい支援ができたことが大きな成果でした。

そよかせ相談室から(3)

相談員 山本 久美子

そよかせ相談室では、来年度入学のお子さんと保護者の方を対象として相談活動を行っています。在学中の場合もご相談をお受けしています。どうぞお気軽にお申し込みください。

今年度から相談のお手伝いをさせていただくことになり、私自身もたいへん勉強になっています。

お子さんが毎日元気よく登校し、「楽しかったよ。」と笑顔で帰宅する光景を思い描き、このお子さんにとっていちばん伸び伸び学べる環境とは？と常に考えながら相談をさせていただいています。

今後、ご両親のお気持ちを大切にしつつ、お子さんの幸福を考えて適切な相談が進められますようお願いいたします。

学級スナック

初めまして よろしく

小豆坂小 四組

本校の四組は、この四月より仲間入りをさせていただきました。一年生と五年生の男子二人で学校生活を送っています。兄弟みたいに仲が良かったり、けんかをしたりして、毎日があつという間に過ぎていってしまいます。学校を休むこともなく、元気いっぱい学級です。

二期からは、習字を始めました。大きい紙に太い筆でのび



のびと字を書いています。たくさん作品を作りたいと思っています。がんばります。よろしくお願います。